

關鐵腕 せつわん 小説家、演劇評論家。明治十八年一月東京生れ、昭和
 四年五月一日歿（八五—一九元）。本名盛壽。筆名半格、春日鹿平、
 桃野迷痴、楚風子、王郎仙、王郎遷、萬富散人、萬富樓主人、藤原壽
 野、關千丈、關復水、雪月花主人。父は關新吉、幼児他家で哺育せら
 れた。岡山の原谷中學校を経て、京都高等工藝學校卒。明治四十一年
 父が社長の山陽新報社に入社、四十三年臺灣日日新聞社に轉じ、大正
 元年臺灣パツク社創設と共に主幹、翌年舊關的臺灣社主筆を兼務。四
 年病を獲て歸郷、六年岡山新報社入社、のち山陽新報社に復歸した。
 療養の傍ら『實録と講談』、『ボケツト講談』等の雑誌に新聞小説、
 讀物多數を執筆。作中中「石段心中」は阪東妻三郎プロダクションに
 より映畫化（木村玄じ男脚色、古海草（監督）せられ、また劇評家と
 しても關曲公一指を冠す。

作品十八篇を収めた『關鐵腕遺稿集』（昭和十一年一月十日關壽野編
 刊）がある。

